

AGRI WORK POINT

アグリ ワーク ポイント

一番茶後の整枝

【目的】

二番茶の生育を均一にするために、一番茶の摘採後は遅れ芽などを取り除き、整枝を行います。

【整枝をしなかった場合】

遅れ芽や一番茶の摘採時に切断された下位葉が生長し肥大すると、摘採面が乱れて、二番茶の摘採時に一番茶に残った葉が混入して品質低下の恐れがあります。

《整枝時期と整枝位置》

ミル芽で摘採した茶園では、早すぎると遅れ芽が再発して二度手間になるので、一番茶の摘採後10～14日程度おいてから整枝しましょう。

反対に、コワ葉で摘採を行った茶園は、一番茶の摘採後5～7日程度おいてから整枝します。整枝の深さは、遅れ芽を取り除く程度に浅く摘採面を整えましょう。

一番茶摘採後の更新作業

【目的】

生葉の摘採や整枝などの作業を繰り返し行うと、茶株面の高さは毎年数cmずつ高くなり、摘採面の枝条も次第に細くなります。養分が葉に行き届きにくくなるので、葉層は薄く、葉量が小さくなっていきます。

新しい養分の通路である枝条をつくり、生育や生産性の向上を図るため、計画的に「更新」を行います。

《更新の種類と効果》

「更新」は剪枝する位置で4種類に分類されています。(表1参照)

【表1・更新の種類とその特徴】 ※茶大百科Ⅱより参照

更新方法	剪枝の深さと程度	時期	更新効果	効果年数
浅刈り	成葉をかなり残す程度に3～5cm剪枝	一～三番茶後	次茶期摘採が5～7日遅れ収量は低下する。翌年の一番茶は更新前の収量に回復	1～2年
深刈り	古葉が残らない程度に10～20cm剪枝	一番茶後が基本	更新の効果が早く回復も早い。翌年の収量は80%程度、2年後は更新前以上の収量	2～3年
中切り	深刈り面より下部、地際から30～50cmで剪枝		深刈りより回復が1年遅れる。翌年一番茶から摘採はできる	4～5年
台切り	地際部～地上10cmで剪枝	一番茶後	回復に数年かかかる	10～15年



茶

一番茶後は樹勢を回復させましょう

茶指導販売課 福手裕三